西濃農林事務所の普及活動状況（令和７年 12 月）

今月の重点活動

■大垣養老高校　「西濃農業の現地巡回学習会」を開催（12月10日）

西南濃農業普及事業推進協議会（事務局：農林事務所）は、大垣養老高校１年生を対象に西濃農業の現地巡回学習会を開催した。

参加を希望した生徒10名、引率の教諭及び市町の関係職員等計20名が参加し、管内で活躍する指導農業士など５経営体（土地利用型作物＋果樹、施設園芸、花き、畜産、６次産業化）を視察した。

各農場では多くの生徒から質問があり、実際の農業技術や農業経営の現状を知ることができて大変良かったとの感想を得られた。

【ほ場で説明を受ける生徒】

農林事務所は、今後も将来の農業を担う人材を育てる一助になるよう企画・支援を継続する。

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手　新規就農者伴走支援（11 月 28 日）

県では、就農５年未満の農業者（新規就農者）を対象に県、市町及びＪＡによる支援チームで伴走支援を行っており、昨年認定農業者となった大垣氏のＨ氏と面談を行った。

初めての面談であったため、伴走支援の趣旨説明をした後、本人から経営や営農状況の聞き取りを行った。以前から父の手伝いを行っており、栽培面では特に問題はないとのことであったが、農地について質問があり、農業委員会へ相談するよう助言した。

農林事務所では、今後も状況に応じて支援チームや個別での対応を行い、早期定着に向けて関係機関で連携し支援していく。

【面談風景】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲　再生二期作米の食味官能評価を実施（12 月 22 日）

農林事務所は、食料自給率向上を目標に、水稲再生二期作の調査を行っており、収穫した玄米について食味官能評価を行った。

日本穀物検定協会の食味評価方法に準じて基準米との相対評価を行い、農林事務所職員 31 人がパネラーとして参加した。結果は基準米（品種：一期作「にじのきらめき」）と比較して二期作「にじのきらめき」で食感が硬く、味がやや劣るという結果となったが、玄米水分や精米率が異なったため、食味は向上する可能性がある。

再生二期作は適性な施肥量や品種の選定等の課題が残るため、農林事務所は次年度も技術確立にむけた現地支援を継続していく。

【食味官能評価の様子】

■（農）高田営農組合　水田土壌の均平作業を実証（12 月 11 日）

養老町の（農）高田営農組合の大区画水田では高低差が 15～17 ㎝とあり、水稲の生育ムラや除草効果が低下してきたため、スガノ農機（株）、キセキ農機（株）と連携し、水田ほ場の均平化に向け、ボトムプラウによる反転鋤き込み深耕の実証を行った。

今後は、１月にバーチカルハローで砕土・整地・鎮圧を行い、２月にレーザーレベラーで均平差を 2.5～1.0㎝にし、５月の田植えに備える。

【ボトムプラウでの反転】

農林事務所は、大区画ほ場水田での管理見直しを助言し、作業者の負担軽減、米の収量及び品質向上を支援していく。

■大豆種子　収穫作業が終了（11/24～12/15）

管内では、海津市の２法人で大豆「フクユタカ」の原種及び種子の生産が行われている。栽培面積は原種ほが８ha、採種ほが 70ha である。

今年は、７月中旬の大雨による出芽不良やハスモンヨトウによる被害が見られたが、作柄は平年並で、不作であった昨年よりは収量は多い見込である。今後、ＪＡにしみのビーンセンターで選別・調製され、種子量が確定する。

農林事務所では、今後、発芽試験を行うとともに、優良な大豆種子生産を支援していく。

【大豆種子ほ場での収穫】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■冬春トマト　海津トマト部会支部研修会を開催（12 月５～17 日）

海津トマト部会には５つの支部があり、支部ごとに生産者のほ場を巡回し、生育や病害虫の発生状況について意見交換を行う支部研修会を開催している。

農林事務所からは、厳寒期に向けた栽培管理の方法や病害虫の発生状況と対策について説明するとともに、GH評価シートを活用したＧＡＰ内部点検を実施するため、チェック項目について解説を行った。

当日は産地の将来像調査のため、産地アンケートが配布され、各支部長から営農意向や産地のあり方について、意見を出してほしいと説明があった。

【支部研修会の様子】

■ミカン　南濃みかん部会目揃会の開催（12月20日）

南濃みかん部会は、ＪＡにしみの南濃選果場で普通温州ミカンの目揃会を開催し、今年度の出荷方法と出荷日について説明があった。今年も高温だったが、昨年のようなカメムシ類の被害はなく、高品質のミカンの出荷が期待される。

部会は、12 月７日に知事の視察訪問があり、「担い手の育成」「耕作放棄地の活用」「スマート農業の推進」「ブランド化」の４課題について部会長から説明があった。農林事務所ではこれらの課題に対し、ＪＡ、海津市と連携して支援を行う。

【目揃会の様子】

■花き　バラのＩＰＭ実証事業に係る取組み支援

神戸町グリーンなバラ栽培研究協議会では、本年度９月より天敵によるハダニ防除、ＵＢＶ照射による病害防除、防虫ネット・捕虫器による害虫防除の実証事業を行っている。

農林事務所は、３名の会員のほ場において、ハダニ等の害虫やうどんこ病等の発生状況を定期的に調査するとともに、結果に基づいて栽培管理や防除タイミングなどの指導・助言を実施している。

現状、天敵によるハダニ防除では定期的な防除が必要となるが、タバコガ、うどんこ病等の発生はかなり少なく、ＩＰＭ防除による抑制効果が十分得られており、農薬散布回数や使用農薬の削減が期待される。

【捕虫器の効果実証】